

平成29年度 第1回八尾市産業振興会議 議事録

日時	平成29年6月28日(金) 15時00分～17時00分
場所	八尾商工会議所会館 3階 大ホール
出席者	<p><委員> 文能座長、滝本副座長、今井委員、樫本委員、勝浦委員、加藤委員、川江委員、田口委員、長尾委員、藤原委員、森嶋委員、山田委員、山本委員 計13名</p> <p><事務局> 植島部長、西野課長、津田参事兼室長、永家課長補佐、倉橋係長、後藤係長、藤原係長、松尾氏、吉田氏 計9名</p> <p style="text-align: right;">総計22名</p>

－事務局による司会で次第に沿って進行－

1. 開 会

事務局より、八尾市中小企業地域振興基本条例第9条第3項および第4項に基づく委員の変更が報告された。近畿経済産業局 細川委員の後任として、近畿経済産業局 地域経済部地域開発室長の田口一江氏が就任。田口委員より挨拶。本日の会議には、乾委員、進藤委員、高橋委員、寺西委員、村本委員が欠席。産業振興会議委員18名のうち、欠席5名であり、八尾市産業振興会議規則第3条に規定する過半数の委員の出席により、本日の会議が成立している旨が報告された。配布資料を事務局より確認。

2. 経済環境部長あいさつ

3. 議 事

－文能座長による議事進行－

座長：平成28・29年度の産業振興会議においては、大きな環境変化に対応するための産業振興施策をテーマとしてきた。検討部会では八尾市の産業をとりまく課題は何であるのか、そのために何をすべきか、10年後の八尾市の産業ビジョンについて等を議論した。この場でその内容について審議いただき今後の検討部会のテーマを考え、承認をいただきたい。

(1) 検討部会の報告について

事務局より、資料1について説明。

座長：事務局からの説明に質問はないか。(質問・その他無し) 質問が無いようなので、副座長から補足や意見をお願いしたい。

副座長：部会では「人材育成」、「企業間連携」、「10年後生き残るためには(八尾の価値)」について議論してきた。八尾の「人材育成」と「企業間連携」は他地区に比べて進んでいる。今後力を入れるべきは、「八尾の価値」について。今後八尾の価値をどのように提案すべきだろうか。その点が八尾は弱い。他地区とどう提携していくか。例えばものづくりのまちとして全国的に知られている東大阪市や(東京都)大田区は八尾より各企業の規模は小さい。したがって八尾の方がポテンシャルは大きく、できることは多いはず。

座長：検討部会に出席いただいた委員の皆様からのご意見を頂戴したい。

委員：「八尾の価値」について。進んでいると言っていたが、広がりが無いのが課題。異業種連携

等の取り組みに力を入れている旨を情報発信しているが、その受け手が受け取れる環境に無いのかもしれない。そのため、異業種交流会に加えて、団体同士のより強い連携の場が必要なのではないかと思う。東大阪市や大田区に比べて八尾市の企業の方が規模は大きいとのことだが、周りを見ているとその実感は薄い。企業数は東大阪市の方が多く、その割合からはそうかもしれない。ものづくりに関しては、東大阪市や大田区の企業団地のような集積地が八尾には無いので、発信力が弱いのではないか。

委員：他地区に比べて八尾は規模の大きな会社が多いとのことだが、だからこそ自力でどうにかできているとも言える。東大阪市や大田区は1社の規模が小さいから危機感が強いのだろう。また、以前の会議で例に出た飯田市も同様。衰退するとまちの存続の危機感がある。そのためまち全体で連携していこうという思いが八尾以上にあるのではないか。

委員：東大阪市でも、民間と行政の連携に課題があると聞く。大田区長は製造業を全面的にバックアップすると公言しているそうだ。現在の連携も大切だが、5・10年後の人材確保にも危機感を持っている。東大阪市の企業では、子どもが考えた案をものづくりに活かすことで「子どもが将来就職したい」会社になる取り組みをしている。

委員：八尾市内の団体同士の連携は進んでいると思う。良い柱（取り組み）がたくさん建っているが、その情報発信がまばらで効果的に拡散されていないと感じる。戦略的な広報が必要。例えばものづくりにおける広報は、ものができてから広報するのが基本だが、戦略的な方法としては、つくり始めの段階から同時進行で情報発信することが基本スタイルとなる。この産振会議参加のメンバーが始めた『有志の会』に参加して商品開発の取り組みを知った。Facebook ページがなかったので作成を提案した。商品開発と広報戦略が同時進行に進む仕組みがあれば、団体同士の連携も進み、良い人材が集まるきっかけになるのではないかと思う。

委員：八尾の価値について。八尾を観光の面からもPRしたい。八尾にしかない商品を作りたい。八尾は個性のあるお店が多いので、それが八尾の商業を伸ばすヒントではないだろうか。そのような八尾ならではの商品を販売する場があるといいと思う。

委員：「ここにでしか買えない八尾のものを販売する」ことが大事と考える。『有志の会』で枝豆製品を開発中。それを八尾市内でしか買えないと価値をつけたら良いと思う。商業者がものづくりの現場を見学して商品開発の提案をし、またその逆の取り組みが進めば良いと思う。商工の連携が進めば八尾の財産になる。

委員：商店の廃業が増加している。商店街は地域と連携した取り組みが必要だと実感している。自分達の思いを引き継いでくれる次世代を地域で育成したい。それが周囲に派生して欲しい。

座長：八尾はアウトプットが十分ではない。企業の取り組みをうまくアウトプットする方法はないか。金融機関には各企業の情報がたくさん入ってくると思う。良い方法はないだろうか。

委員：最近増えているSPA（製造小売業）ではモニタリングが必要ということで、「消費者モニターイベント」を行っている。消費者にダイレクトにPRができる。

座長：検討部会では10年後に生き残るため、10年後の八尾の未来について議論してきた。先だってアベノミクスの成長戦略として「Society 5.0の実現を目指す未来投資戦略2017」が閣議決定された。こちらについて田口委員に説明をお願いしたい。

委員：八尾のものづくりの技術が中心となって、マグネシウム合金で新幹線の内装部材を製造するプロジェクトが進行中。このような取り組みを応援するのが「地域未来投資促進法」。

座長：最新の情報をご紹介いただいた。うまく使えたら八尾の発展につながると思う。

委員：「地域未来投資促進法」についての質問。2ページに記載があるが、資本金1～10億円の中小企業とのことだが、八尾にはそれ以下の企業も多い。

委員：あくまでも目安。先々の中長期計画があれば問題ない。

委員：昨日、八尾市で「ものづくりカレッジ」が開催された。興味深い勉強会だった。『有志の会』では只今3つのプロジェクト（枝豆ビール・枝豆石鹸・ロボット）を進めて新しい産業を生み出すことを目指している。この資金集めのためにクラウドファンディング導入を検討している。また当社ではエコアクションについて考えている。しかしゴミの排出量の測定が必要で煩わしい。社内から不評だった。実態にあった取り組みをしていきたい。

（2）今後の検討部会について

副座長：八尾を打ち出していきたい。八尾の強みは個性あるオンリーワン企業がいくつもあること。その業種は多岐に亘る。イノベーションの本来の意味は、「あるもの」と「あるもの」の組み合わせ。八尾の可能性はここにあるのではないだろうか。これを打ち出せないだろうか。例えば“ひらめきの八尾” “おもろいものづくりの八尾”。様々な業種があることを強みとして打ち出してはどうだろうか。

座長：アイデアを一つ頂戴した。素晴らしい企業があることを活かしてより大きく広げたい。頑張っている小規模の企業にも光を当てたい。この他どのような議論をしていくか。

委員：八尾は業種がバラバラだからこそ良いのだとも言える。しかし業種が違くと出会いの機会が無いので「お見合いコーディネーター」的な存在が必要。中小企業サポートセンターも活用したいが、広報戦略の専門家はセンターにはいないので新たな存在が必要かもしれない。

座長：視点を変えて、消費者としてのご意見も頂戴したい。

委員：この会議メンバーには、八尾のために頑張ろうという思いと実行力を持った人が多い。しかし現場ではその力が無く、ぎりぎりの状態で働いている人も多い。商業の衰退化や人口減少の課題がある。また、消費者・商工・行政の連携が取りにくいという課題もある。連携して丸い円を描きたい。また、施策の成果を出していく方が良い。

座長：将来を考える上で、消費者意見を踏まえ、八尾の産業振興にどう力を注いでいくかが重要。

委員：バス路線廃線による買い物難民の問題。買い物できる店が減少し、不自由になっている。また、この建物1階にあるモニター設置について、八尾の企業情報の効果的な情報発信にツールとしての活用手法を検討するのはどうか。

座長：八尾市民が市内で買い物をできる環境づくりは必要。また、八尾市でしか売れない/買えないものを販売する仕組みづくりについても考えていきたい。今後の部会で検討できたらと思う。

委員：資料にある企業間連携について。当社はこの輪の中でのコーディネート役を担いたいと思って取り組んでいる。商工の直接の連携は実際に難しいので、図の点線に囲まれている立場の人たちがコーディネーターとして役割を果たすのが効果的。販売力や情報発信力を確実に持っている人である。

座長：それは重要なポイントである。

委員：これまでの取り組みを振り返ると、多くの人を巻き込むことで結果、うまくいったという実感がある。当商店街では消費者の皆さんに商店街サポーターとして関わってもらっているがこの方向性で進めていきたい。

委員：八尾まつりについて。久宝寺を会場として開催されているがもっと八尾駅周辺等の中心地を活性化させる手法が必要ではないか。また、八尾市全体、企業も協力し、アンケート集計やモニタリングができるのではないか。

委員：八尾あきんど起業塾について。既存店舗のサポートも考えていく必要があるのではないか。

事務局：既存店舗の経営相談は、商工会議所の相談業務を活用している。

委員：もっと盛り上げて広報する工夫が必要ではないか。

事務局：昨年度の入門編は20名定員のうち19名が受講。実践編のサポートで1店舗が開業。これとは別に入門編受講者が2店舗開業した。これまでの実績を踏まえて、今年度はさらに多くの人たちのサポートができるように工夫したい。

座長：本日様々な意見を頂戴した。これらを踏まえて今後の検討部会を続けていくということで宜しいだろうか。

全委員：異議なしのため了承

座長：近畿経済産業局から、今後の国の方向性を踏まえて、最後に意見をいただきたい。

委員：企業間連携は新商品開発を目的とした連携。「地域未来投資促進法」の中核企業はこのうちしっかり利益を出して地域経済に反映していこうという事業者を指す。副座長の言われた通り、イノベーションとは、あるものとあるものを組み合わせることで新しい価値を生み出すこと。「技術革新」と最初に翻訳されてしまったために間違っってニュアンスで理解されている。個性ある企業が集まっている八尾だからこそ、異業種が集まって何か新しい価値を生み出せるのではないか。

(3) その他

事務局より、資料2「委員名簿」、資料3「今後のスケジュール」、景気動向調査、yaomaniaについて説明。

4. 産業政策課長あいさつ

5. 閉会

以上